

相手意識をもって書く活動の実践 ～台湾の中学校との交流を通して～

福政 純子

鳥取大学附属中学校 英語科

E-mail: fukumasa-j@tottori-u.ac.jp

FUKUMASA Junko (Tottori University Junior High School): Research on output activities with an awareness of the people with whom you are interacting. —Through talking with international students

要旨 - 本研究では、中学校英語の授業において、台湾の中学生とのビデオレターや手紙、質問等の実際の交流が、生徒の書く活動への意欲や外国の文化への関心に与える影響について検討した。実際に外国人と交流することは、自分自身や自分の考えについて英語で伝える体験になると同時に、相手の国の文化や相手自身の考えを知ることになる。生徒達は、書く相手の文化的背景や相手自身の好み等を意識し、書く内容や適切な英語表現について考える。このような台湾の中学生との交流を通して、班での原稿の読み合い等の手立てをしながらまとまりのある英文を書く実践を継続した結果、多数の生徒の英語を書く活動への意欲や外国への興味関心が向上する傾向が見られた。

キーワード 海外交流, 相手意識, 協同的探究

Abstract — In this study, we examined the effects of actual exchanges such as video letters, letters, and questions with Taiwanese junior high school students in junior high school English classes on students' motivation for writing activities and their interest in foreign cultures. Actual interaction with a foreigner provides students with the experience of communicating in English about themselves and their ideas, and at the same time, it allows them to learn about the culture of the other country and the other person's own ideas. Students are aware of the cultural backgrounds and preferences of the people to whom they write, and consider what to write and how to express themselves appropriately in English. As a result of this exchange with Taiwanese junior high school students, many students' enthusiasm for English writing activities and interest in foreign countries tended to improve as they continued to practice writing coherent English sentences while reading manuscripts together in groups.

Key words — Overseas Exchanges, communication, motivation, partner awareness, Collaborative Inquiry Learning

1. はじめに

中学校学習指導要領外国語編では、「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」(文部科学省, 2018)の育成を外国語科の目標としている。そして、育成を目指す資質・能力の三つの柱の一つである「学びに向かう力, 人間性等」に関わる目標を、以下のように設定している。「(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら、

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」(文部科学省, 2018)。そのためには、英語を用いて実際に外国人との交流体験をすることは効果的だと考える。交流を通じてお互いを知ることになり、異文化理解を深めることにつながるからである。

今年度、鳥取大学附属中学校(以下、本校)では、学習した英語や既存の知識を用いてコミュニケーションを行えることを目標として、個人・協同学習を取り入れながら話す、書く等のアウトプット

活動の場面を各単元に設定してきた。そして、アウトプット活動を通して、課題に向かって「主体的に」「対話的に」「深く」考えることのできる「やりくり授業」を実践してきた。

ただ、課題として、あるテーマについてまとめた英作文を書く際、英語に苦手意識があり、構成や内容に苦労している生徒が目立つ。福政(2024)では、「文法で混乱する」「英文が長い、覚えづらい」という具体的回答が得られており、「日本語と英語の発音や文法の違いや単語の多さから、生徒が不安感を募らせ、自信を失っていることを考慮に入れ、今後の授業を考えていく必要がある。」と結論付けられた。このように、生徒の実態に合わせて活動を計画する必要がある。

そこで、本研究では、生徒のやりくりとして、既習事項を用いて、台湾の中学生に自分の考えを書くという自己表現活動を進め、生徒の意識がどう変化するかを見取ることにした。まとめた文を書かせる際には生徒の習熟度に配慮し、既習表現の生かし方や推敲の仕方に重点を置きながら指導することにした。

2. 研究の方法

仮説「台湾の中学生との交流によって、生徒の英語を書く活動への意欲や外国の文化への興味関心が高まるのではないか」

この仮説をもとに授業実践を行い、アンケート調査の分析から仮説の検証を行った。また、授業実践が生徒に与える影響について調査するため、6月、7月、11月にアンケート調査を実施した。また、調査で英語を書くことについて関心が低い生徒を抽出生徒群1、友達と読み合う活動について役立ち感をもっていない生徒を抽出生徒群2とし、その後の変容について分析を行った。

2.1. 実践の対象および時期

実践の対象は、鳥取大学附属中学校2年生140名(4クラス)の生徒である。台湾の中学生との授業実践は2024年6月から11月の間に複数回実施した。

2.2. 調査の内容

実践後、英語の学習についてのアンケート調査を実施した。(図1) 質問を以下に示す。

[アンケートの内容]

- ① 英語を上手に書けるようになりたいと思いますか。
- ② 外国の文化に興味がありますか。
- ③ もし英語ができれば、どんなことをしてみたいですか。
- ④ 英語を書くことに楽しさを感じますか。
その理由()
- ⑤ 英語を書くことにやりがいを感じますか。
その理由()
- ⑥ どんなときに、英語を書くことの楽しさ、やりがい、達成感を感じますか。
その理由()

アンケート調査は、4件法及び自由記述とした。質問1, 2, 4, 5では、「とてもそう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」から1つ選択させた。質問4, 5, 6における理由は自由記述とした。また、7月、11月には以下の追加の質問を加え、4件法及び自由記述で回答させた。

[追加アンケートの内容]

- ⑦ 自分が英語で書いた原稿を友達と読み合ったり、ロイノートやパドレットで他の友達が書いた原稿を読んだりする活動を続けてきました。この活動はあなたにとってよかったですか。
その理由()

(調査の内容)	
①	英語を上手に書けるようになりたいと思いますか。
②	外国の文化に興味がありますか。
③	もし英語ができれば、どんなことをしてみたいですか。
④	英語を書くことに楽しさを感じますか。 その理由 ()
⑤	英語を書くことにやりがいを感じますか。 その理由 ()
⑥	どんなときに、英語を書くことの楽しさ、やりがい、達成感を感じますか。 その理由 ()
(7月, 11月追加調査の内容)	
⑦	自分が英語で書いた原稿を友達と読み合ったり、ロイノートやパドレットで他の友達を書いた原稿を読んだりする活動を続けてきました。この活動はあなたにとってよかったと思いますか。 その理由 ()

図1 アンケート調査

2.3. 実践の内容

授業実践は2024年6月から11月の間に複数回行った。その計画を、表1に示す。

授業実践の際に、特に注意して指導したことは以下の4点である。

1. 「目的」「場面」「状況」を明確にすること
2. 協同的な学びを個人の推敲に生かすこと
3. 既習文法、既習表現を生かす場を設定すること
4. 相手意識に重点を置いた読み合い活動にすること

2.3.1 「目的」「場面」「状況」を明確にする

「どんな目的で何を伝えるのか」によって、伝える内容が変わってくる。また、相手校のクラス全員に向けての活動なのか個人的に伝えるのか等、どのような状況で相手に伝えるかも、具体的に設定して生徒に伝え、内容を考えさせた。

2.3.2 協同的な学びを個人の推敲に生かす

各活動の主な流れは、①目的に沿った1回目の writing (個人) ②班で感想、アドバイスを書く (協同) ③2回目の writing (個人) ④全体でシェア (協同) ⑤振り返り (個人) とした。個人の原

稿を班で読み合い、お互いにアドバイスさせた。また、個人の原稿をロイノートに提出させ、友達の原稿を自由に閲覧できるようにした。友達のアドバイスや閲覧した友達の原稿を参考に、自分の原稿を推敲させた。

2.3.3 既習文法、既習表現を生かす場の設定

既習事項の中から、それぞれの活動のテーマについて英作文を書く際に役立つと思われる表現を提示し、参考にさせた。例えば、学校紹介では、教室の紹介で There is~. 文、自己紹介では、不定詞を用いて、I like to~. 手紙の最後には、I hope~. などを、黒板や大型テレビに表示した。

表1 実践の経緯(交流する目的と内容)

月	交流する目的	伝える内容	形態
6月	自分について知ってもらう	自己紹介 名前, 年齢, 趣味, 特技, 休日の過ごし方, 好きな○○	個人 スライド
7月	附属中について知ってもらう	学校紹介 カテゴリー別に, わかりやすく	グループ 手紙
9月	台湾から返事が届く		
10月	台湾の学校生活について質問をする	台湾の学校について質問しよう。	個人 ビデオレター
	台湾から返事が届く		
11月	交流の提案書を作成する	交流する際の活動内容を班で話し合っ て決める。	グループ 手紙

2.3.4 相手意識に重点を置いた読み合い活動

班やクラス全体で英作文を読み合う際に、内容が相手にとってわかりやすいか、相手が読んで嬉しい気持ちになるかなどを意識して活動させた(図2)。また、アドバイスを元に推敲させ、推敲を通して気づいたこと、よくなったところ、次に生かしたいことをワークシートに記入させた(図3, 4, 5)。

実際に台湾の生徒が読んでくれるときの状況を想像させながら、読み合い活動を展開した。説明を加え、学校生活自分の原稿を友達のものと比較することを通して、自分の英作文を客観的に見る機会とした。また、ロイロノートに提出されたものの中で、工夫されている表現を教師が紹介し、推敲する際の参考にさせた。

Activities for Taiwanese students

Class()

The students from Taiwan will come to our school in May. We have to make a plan for their visit. Suggest 2 activities.

※They will stay only half a day. They can join any activities and any classes.

	What do you want to do with them? Why did you choose this activity?
Activity 1	<p><u>Japanese event experience</u> <i>Children's Day</i></p> <p>I want to do some events such as Doll Festival, Star Festival and Christmas with them. They can know many Japanese event and it will good experience for them.</p>
Activity 2	<p><u>Cooking</u></p> <p>Cooking something is difficult but it is fun. I think cooking Japanese food and Taiwan's food is good way to learn about each other.</p>

日本語のイベントの紹介や行事の内容が長

日本の行事や行事の紹介が長

異文化の理解と理由が長

図2 交流の活動提案文 (班でアドバイス)

We think the best activity is Japanese event activity because I want to do some events such as Doll Festival, Children's Day, Star Festival with them. They can know about Japanese culture. Playing the Japanese instruments is the second. If they play the Japanese instruments, they learn about Japan and they can enjoy. The third is playing handball. If we become same team, we can make many friends. We hope to know about Japanese culture to them and become good friends.

図3 アドバイス後の推敲した作文

アドバイスを参考にして、原稿を推敲しよう!

Hello, Michael. I'm going to tell you about my town, Junpu.

It is in the east of Tottori. It is famous for old toys. There is a clock tower near Kyushozan. Its name is Warabekan. It has a big clock tower. This clock moves every hour. Many people enjoy it and playing a lot of toys. It's fun. When I want there, I can play Kendama.

I love my town. I hope that you go to Warabekan. If you are free, please visit there. Thank you.

【原稿を参照して良かったこと、よかったこと】

- 友達からのアドバイスでゆんぐが伝わったという意見が来て良かった。
- 接続詞をたくさん使ったこと。
- 一年の間に文量や文の質が上がっていることが、自分の意見と相手がわかることも説明された。

図4 自分の町紹介 (読み合い後の推敲, 振り返り)

ワークシート2

1. 別のテーマの友達の前稿を読んで、よかったところをメモしてみよう。

名前	内容	英語表現 (書き出してもOK)
さん		such as ~ 挙げている
さん		mustn't との否定文
さん		

2. アドバイスを参考にして、原稿を修正しよう!

Hello! We're going to tell you our school lunch and cleaning. First, we will explain about school lunch. At my school, we eat the same menu. It has many popular menu, such as fried chicken, ramen, and bread. School lunch is our favorite time because we can talk with our friends during school lunch time. Second, we will explain about cleaning. It is fifteen minutes. Each group cleans a different area. It is not fun, but we must clean our school, so we do our best. How do you clean? Please send a video letter. Thank you.

3. 修正してよくなったところ、次に生かしたいこと等、自由に書いてみよう。

such as を使ったことより具体例のある方が詳しい文章になったと思います。また、否定文を入れることができて良かったです。

図5 学校紹介 (読み合い後の推敲, 振り返り)

3. 結果と考察

台湾の中学校との交流と英語を書く活動に対する学習意欲についての関連を把握するために、アンケート調査の結果を用いて、次の内容について考察した。

1. 全体の傾向
2. 書くことに対する全体の傾向
3. 抽出生徒の「書く楽しさ・やりがい」に対する傾向
4. 「英語を読み合う活動」に対する全体の傾向

6月の調査の質問4「英語を書くことに楽しさを感じますか。」で、「そう思わない」「まったくそう思わない」と回答した生徒17人を抽出し、「抽出生徒群1」として記述の分析を行った。また、10月の調査の質問7「活動はあなたにとってよかったですか。」で、「そう思わない」「まったくそう思わない」と回答した生徒8人を抽出し、「抽出生徒群2」として記述の分析を行った。

- ・「英語を読み合う活動」に対する抽出生徒群2の傾向
- ・「英語を読み合う活動」に対する抽出生徒群1の傾向

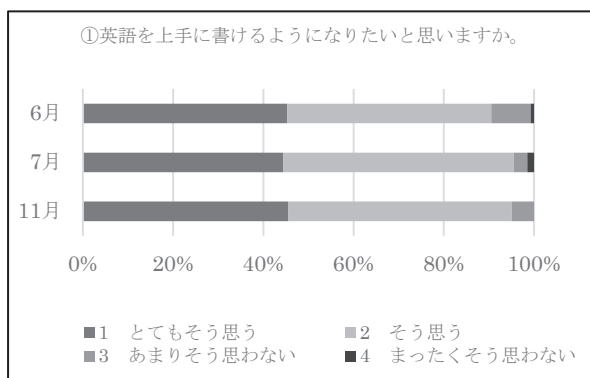


図6 質問1の回答内容

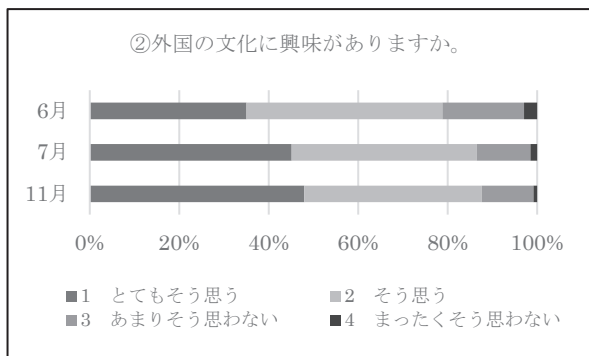


図7 質問2の回答内容

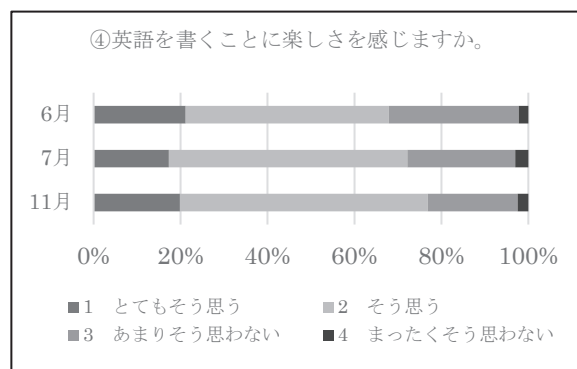


図8 質問4の回答内容

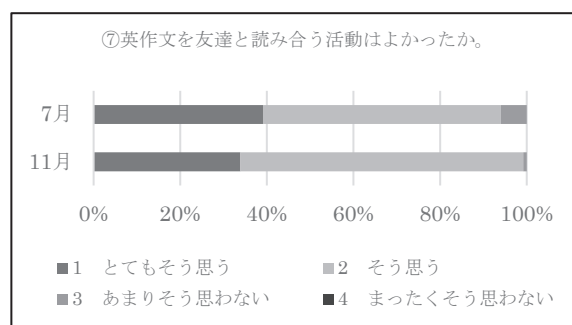


図9 質問7の回答内容

3.1 全体の傾向

質問1, 2, 4, 7に関する質問について集計し得られた結果を図6~9に示す。項目ごとの回答の割合を見ると、質問1「英語を上手に書けるようになりたいと思いますか。」や質問2「外国の文化に興味がありますか。」、質問4「英語を書くことに楽しさを感じますか。」では、回を経るに従い、「とてもそう思う」「そう思う」という肯定的な意見が増えている。特に、質問4では、6月の肯定的回答68%に対して11月では76%と、「書くこと」に楽しさを感じる生徒が増えていることがわかる。台湾の生徒との交流を通して、英語を書くことへの意欲が徐々に高まったということが言える。また、質問7の「友達の原稿を読み合う活動は自分にとってよかったですか」については、7月では肯定的回答が93%であったのに対し、11月ではほぼ全員が肯定的回答をしている。これは、自分が英語で書いたものを友達と読み合い、アドバイスし合いながら推敲するという活動が、生徒たちにとって効果的であったことを示している。

3.2 「書くこと」についての全体の傾向

質問 4「英語を書くことに楽しさを感じますか。」では、7月と11月を比べると、否定的回答が37人から28人に減っている。質問4の肯定的理由と質問 6「どんなときに、英語を書くことのたのしさ、やりがい、達成感を感じますか。」の主な肯定的回答を以下にまとめた。下線は筆者によるものであり、達成感や相手意識が感じられる記述について示した。

学ぶ楽しさ・新鮮さ

- ・1語も間違えることなく書けると、とても気分がいい。
- ・わからないところが多いけど、友達に教えてもらうとわかるようになって嬉しい。
- ・好きな歌の歌詞の意味を理解できて書けたりしたら嬉しい。
- ・外国のことについて調べて、それを英語で書くときに、文化なども知れて楽しい。
- ・新しい知識を得られるから。
- ・日本語とは違う面白さがある。
- ・異国の文化に触れるのはわくわくする。

成長を実感

- ・書ける単語や表現が増えていくと実感したとき。
- ・すらすら書けると自信につながる。
- ・Google 翻訳を使わずに、長い作文ができたとき。
- ・習った文法を使って、普通の文をレベルアップできたとき。
- ・AIなどの力を借りず、自分の力で英文を書けたとき。
- ・自分1人の力で手紙などが書けたとき。

自分の考えを英語にする楽しさ

- ・自分が思っている、伝えたいことを習った英語を使って書けたとき。
- ・学んでいくごとに、自分の気持ちや考えを表せるようになった。
- ・自分の考えを思い通りに書けたとき。

相手に伝わることの嬉しさ

- ・自分が書いたことを相手に意味をわかってもらったとき。
- ・台湾の生徒に英語で手紙を書いているとき。

- ・他の国の人々に伝えられるような英文が書けたとき。
- ・世界のいろんな人とやりとりができる。
- ・自分の書いた文で、見た人が共感や理解をしてくれたとき。
- ・自分の好きな物やことを英語で書いて発表したり、台湾の生徒に送ったものを見てもらったりするとき。

以上のことから、生徒達が台湾の生徒達や学校生活をイメージしながら自分が書きたいことを英語で書くことに、楽しく新鮮な気持ちで取り組んだことが見てとれる。実際の相手がいるからこそ、自分のことをわかってほしい、伝えたいという気持ちになる。それが英語を書くことへのモチベーションとなっている。また、英作文を読み合う活動の中で「友達が自分の英語を読んでわかってくれた。」「台湾の生徒達が自分の書いた手紙やビデオレターを理解してくれて返事をくれた。」という嬉しさも、達成感となっていると考えられる。実際の相手を意識して書くことで生まれる緊張感と、コミュニケーションがうまくいったときの喜びは、中学生にとって大きいものである。

3.3 抽出生徒群1の「書く楽しさ・やりがい」についての傾向

11月に質問 4「英語を書くことに楽しさを感じますか。」で否定的回答をした生徒 28人の中で、質問 5「英語を書くことにやりがいを感じますか。」で肯定的回答をした生徒は17人である。

質問 4の否定的理由として、生徒の記述の傾向として次の3項目が挙げられる。

難しさ

- ・文法などが日本語と違って、覚えるのが大変だから。
- ・難しい表現や単語が多くて大変。

間違えやすさ

- ・長い単語や前置詞がちがっただけで×になってしまうから。
- ・分かったつもりでも間違えていることが多いから

書けない苦しさ

- ・英語が書けない。・時間がかかる
- ・書いていると分からなくなってくる。

そして、質問5の肯定的理由として、次の5つが挙げられる。ここでも、達成感や相手意識が感じられる記述について下線で示す。

正しく書けた

- ・プリントなどで満点がとれたとき。
- ・ワークの問題で英作文が出て、その問題が正解だったとき

やりきった達成感

- ・難しいことができたとき。
- ・1文書ききれるとすっきりする。
- ・テストが終わったとき。
- ・課題の英作文をすべて書き終わったとき
- ・「こういうことか!」と理解できて、長い文を書けたとき。

自己表現できた

- ・自分の考えを英語で書くとき。

自力で書けた

- ・自分の力で書けたとき。
- ・翻訳機を使わずに書くのは達成感がある。

相手に伝わった

- ・相手に通じたとき。
- ・長文を書いて理解してもらえたとき
- ・自分の伝えたいことが、きちんと正しく英語で相手に伝わったとき。

英語は正しく書くのが難しくミスが多く出してしまうことから、書くことに自信を失っている生徒が全体の約2割見られる。ただ、その中でも、問題が解けた、理解できたというやりがいは感じている生徒が多い。また、自分の考えを自分の力で英語で書き、それが相手に伝わったという達成感を感じている生徒も見てとれる。

3.4.1 「読み合う活動」についての傾向

質問7「自分が英語で書いた原稿を友達と読み合ったり、ロイロノートやパドレットで他の友達が生きた原稿を読んだりする活動を続けてきた。この活動はあなたにとってよかったですか。」では、ほぼ全員が肯定的回答をしている。以下は、肯定的回答の理由として生徒が書いた記述の抜粋である。

思考の広がり

- ・自分だけだとそれ以上にはなれないけど、友達が書いたものを読むと、もっと自分の力を上げられるから。
- ・アイデアの多様性に触れた。
- ・自分が書いた文と同じ内容でも、書き方が違って、すごく参考になった。

アドバイス

- ・お互いにアドバイスをし合って、スペルミスやよい英訳に気づけたから。

友達への関心の高まり

- ・友達が思っていることを英語で表現しているのが面白い。

読解力

- ・読解力のチェックになってよかった。
- ・英語の文章を読むのに慣れてきたから。

3.4.2 抽出生徒群2の「読み合う活動」についての傾向

質問7について、7月の否定的回答は8人であったが、そのうち7人が11月には肯定的回答となっている。7月に否定的回答をした生徒は英語を得意とする生徒が多く、回答の理由として、「やりがいを感じなかった。」「アドバイスをもらえなかった。」「読み合っても変わらなかった。」という回答がほとんどであった。11月の肯定的回答の理由として、「その人の趣味など、いろいろなことを知ることができるから。」「自分の英文と他の人の英文を比べてみると違うことが多いから。」「いろいろな人の考えがわかって面白かったから。」「友達の原稿のミスを見つけるのは、とても自分のためになるから」「友達の文を読むことで、自分の文との違いに気づけた。」などと記述している。

読み合う活動について、英語が得意な生徒でも「よかった」と回答した理由の一つとして、書く活動のテーマの違いが挙げられる。7月は「授業」「給食」などについての学校紹介というある程度書く内容が定まった内容で原稿を読み合ったが、その後継続して友達と英作文を共有する活動を行い、11月には「台湾の生徒が5月に来日する際の交流活動の内容を3つ自分で提案する」という自由度の高い活動を行った。友達が書いた内容や用いている表現について気づくことも多く、原稿を読み合うおもしろさを感じた生徒が多かったのではと推測される。

3.4.3 抽出生徒群1の「読み合う活動」についての傾向

11月のアンケート質問4「英語を書くことに楽しさを感じますか。」について、「あまり感じない」「まったく感じない」と答えた28人中27人が、質問7「英文を読み合う活動」について「とてもよかった」「よかった」と肯定的に回答している。肯定的回答の理由として、次のような記述が見られた。

- ・他の人の意見を知ることによって視野が広がった。
- ・たくさんの発見があった。
- ・いろいろなアドバイスをもらえるから。

英語に苦手意識のある生徒は、友達から修正のアドバイスをもらいながら、スムーズに推敲へ向かうことができたことと推察される。また、英語を書くことが「楽しい」と感じなくても、友達の様々な考えを知ったり使用している英語表現の多様さに触れたりすることのおもしろさに気づいた生徒が多い。自分の文と周りの友達の文を比べることで、気づきや発見が多かったことが回答が肯定的に変わった一因だと考える。

5. まとめと今後の課題

本研究では、台湾の中学生との英語を使った交流を実施し、それによって、生徒の英語を書くことへの意欲や外国の文化への関心に変化があるかに着目した調査、分析を行った。その結果、英語を用いた手紙やビデオレターのやりとりは、生徒達の外国の文化への興味を引きつけ、さらに英語をより上手に書きたいという意欲を高めていることが示された。英語を書くことについて、ただ「楽しい」だけではなく、中学2年生として、できるようになった嬉しさや難しいことを書けるようになった達成感を感じていることがわかった。

実際に台湾の同年代の生徒と交流することを通して、「相手のことをもっと知りたい」という純粋な気持ちから、自分の考えを自力で英語で書こうとする気持ちが高まったと考える。さらに、自分の英語が相手に伝わったという嬉しさが書くことの楽しさややりがいにつながったと推察される。これはやりとりをする相手が実際にいてこそ得られる気持ちである。

英作文をさせる際の形態として、個人と班を用いた。多様な意見に触れながら考えを深めさせるため、原稿を班で読み合ったり全員が提出したものをタブレット上で共有し閲覧し合ったりする活動を継続して行ったが、活動の度に積極的に学び合う姿が見られた。また、アンケートでは、友達の英文から刺激を受けたり、アドバイスが役に立った

りしたという記述が多く見られ、下位の生徒はもちろんだが、上位の生徒達にとっても有効な活動だったことがわかる。友達と協力する活動を肯定的にとらえている生徒がほとんどであり、書く活動への意欲につながっていることが示された。

相手を意識しながら主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるには、いくつかの手立てが必要であることもわかった。今後は、英語に苦手意識がある生徒にとっても、英語を書く活動で達成感を得られるよう、Useful Expressions やモデル文の提示などによる個別の支援の充実を目指したい。また、班の友達だけでなくクラス全体での英作文の共有の仕方を検討し、さらに個に生かせるようにしたい。個々の生徒が技能的な成長を感じられるよう、手立てを工夫したい。

台湾の生徒との交流は今後も続いていくので、届いた返事をクラスで共有し、「誰のどの内容に対して何を書いたらよいか」というような、実際の相手とのコミュニケーションの楽しさをさらに味わわせたい。

6. 参考文献

文部科学省(2018) 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編

福政 純子(2024)“相手を意識したアウトプット活動の実践～外国人留学生との対話を通して～”
鳥取大学附属中学校研究紀要, 55:75-82